

トルコギキョウの11～12月出し栽培におけるロゼット株の発生要因と回避技術

【要約】 トルコギキョウの11～12月出し栽培では、播種後の平均気温が28.5℃以上の高温に遭遇するとロゼット株が多発する。7月上旬播種では、高温遭遇期間が14日間以上続くと抽台が遅れ、12月下旬までの開花株率が低下する。ロゼット株の発生を回避するための冷房育苗は播種直後から昼間25℃、夜間15℃で8週間行うとよい。

園芸研究所・野菜花き部・花き花木研究室

連絡先

092-922-4111

部会名	園 芸	専 門	裁 培	対 象	花き類	分 類	普 及
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

【背景・ねらい】

トルコギキョウの早出し栽培では、播種時期が高温の場合にロゼット株が多発し、出荷期の遅延と切り花の品質低下が著しい。最近、冷房育苗や夜冷育苗による秋～冬出し栽培が行われるようになったが、ロゼット株の発生をもたらす高温遭遇期間や障害程度について不明な点が多い。そこで、11～12月出し栽培における育苗期の高温条件とそれを回避して抽台・開花を促進するための温度管理法について検討する。

【成果の内容・特徴】

- ①抽台、開花株率は、発芽後の幼苗の高温遭遇期間によって異なる。11～12月出し栽培における7月上旬播種では、播種後に28.5℃以上の気温が14日間以上続くと抽台が遅れ、12月下旬までの開花株率が低下する(表1、図1)。
- ②高温によるロゼット化を回避して、抽台、開花を早めるためには、播種直後から昼間25℃、夜間15℃で8週間冷房育苗するとよい(表1、図1)。

【成果の活用面・留意点】

- ①トルコギキョウの秋～冬出し栽培地域における高温障害対策技術として活用する。
- ②8月の高温期に定植する場合には、圃場は事前に十分灌水するとともに定植後は土壌水分、空中湿度の維持に努める。

[具体的データ]

表1 11～12月出し栽培における高温遭遇期間と
抽台・開花株率及び開花時の形質（平成4年）

高温 期間	開 花 開始日	平 均 開花日	切 花 長	抽 台 株 率	開 花 株 率
日	月 日	月 日	cm	%	%
0	11・27	12・ 9	53	100	95
3	12・ 9	12・18	63	100	75
5	12・ 9	12・18	63	100	80
7	12・17	12・25	60	100	50
14	-			85	0
21	-			80	0
28	-			25	0

- 注) ①品種：あずまの粧 7月1日播種
 ②抽台、開花株率：12月末日までの調査
 ③高温期間：平均気温28.5℃の遭遇日数

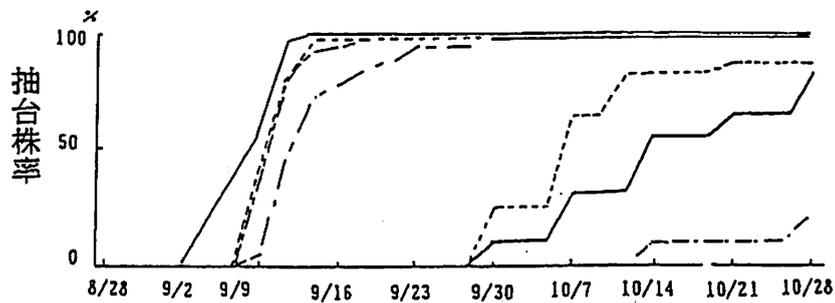


図1 高温遭遇期間と抽台株率（平成4年）

- 注) ①品種：あずまの粧 7月1日播種
 ②高温日数0日は播種直後から
 8週間冷房育苗 昼(25℃)―夜(15℃)、
 3～28日は28.5℃の高温遭遇期間

高温日数
 ——— 0 日
 - - - - 3 日
 - . - . 5 日
 7 日
 - - - - 14 日
 - - - - 21 日
 - - - - 28 日

[その他]

研究課題名：高温障害発生条件の解明
 予算区分：地域重要
 研究期間：平成4年度（平成3～4年）
 研究担当者：坂井康弘、小林泰生、谷川孝弘
 発表論文等：平成3～4年度園芸研究所野菜花き部花き花木研究室試験成績書